

コミセンの役割と 地域の活動事例



長岡市市民協働推進部

市民協働課
令和2年7月

資料2-1

1 コミュニティ活動って何？

日ごろから取り組んでいる身近な活動

- 街路の清掃
- 運動会
- 文化祭
- 交通安全パトロール
- ゴミの減量運動

よりよい地域社会
の実現に向けた
盛んな地域活動

コミュニティ活動



2 コミュニティの目指すもの

- 地域の伝統・文化、誇りなど（=地域の宝）の次代への継承
- 個人だけでは解決できない課題（ごみ・環境問題、少子高齢化、人間関係の希薄化、青少年問題など）



- コミュニティを基本とし、世代や組織の枠を超えて交流を深め、積極的に力を合わせていくことが必要。
- 地域活動を通して、地域の豊かな人間形成や地域意識の向上を地区単位で行う



「そこに暮らす人たちの“幸せ”を自分たちの力で実現させる」
持続可能な住民主体の地域づくりを浸透・定着させていく



3 長岡市総合計画では

政策4 暮らしの安心と活力 ～地域コミュニティ活動の推進～

- 市民の一人ひとりが地域に愛着と誇りを持ち、いきいきと暮らすことのできる、地域の風土や特性に応じた住民主体のまちづくりを目指します。
- コミュニティ活動推進組織の体制づくりや各地域のさまざまな地域資源を活かした地域活動への支援を行います。
- 地域における市有施設等を活用した交流・活動拠点の整備により、地域コミュニティ活動の活性化を促進し、さらなる「市民力・地域力」の向上を図ります。

人口減少・高齢者社会を迎えたなか、

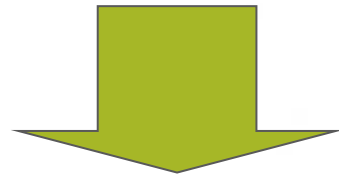
活力あふれるまちづくりを維持していくための原動力は、「市民力」「地域力」です



4 長岡地域のコミュニティセンター

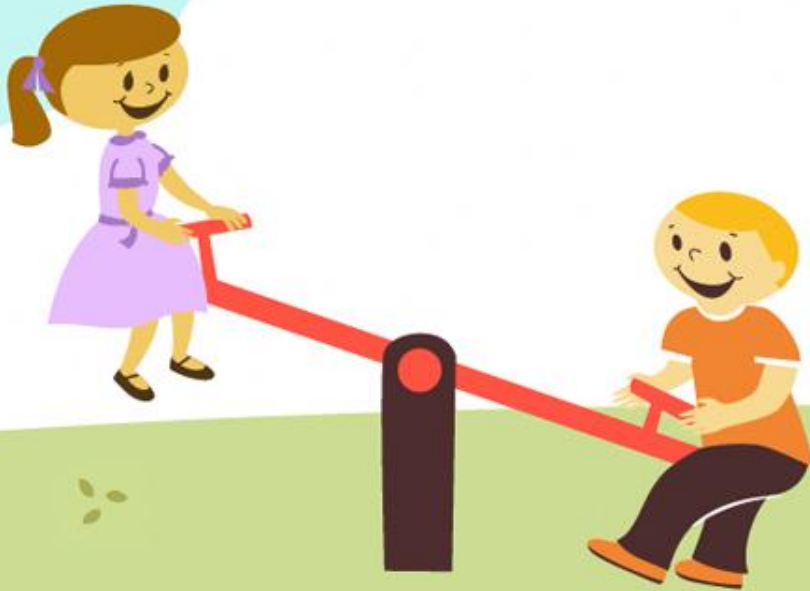
平成10年3月 地域施設のコミュニティセンター化
コミュニティの拡充強化

平成16年4月 全市 コミュニティセンター化の実施

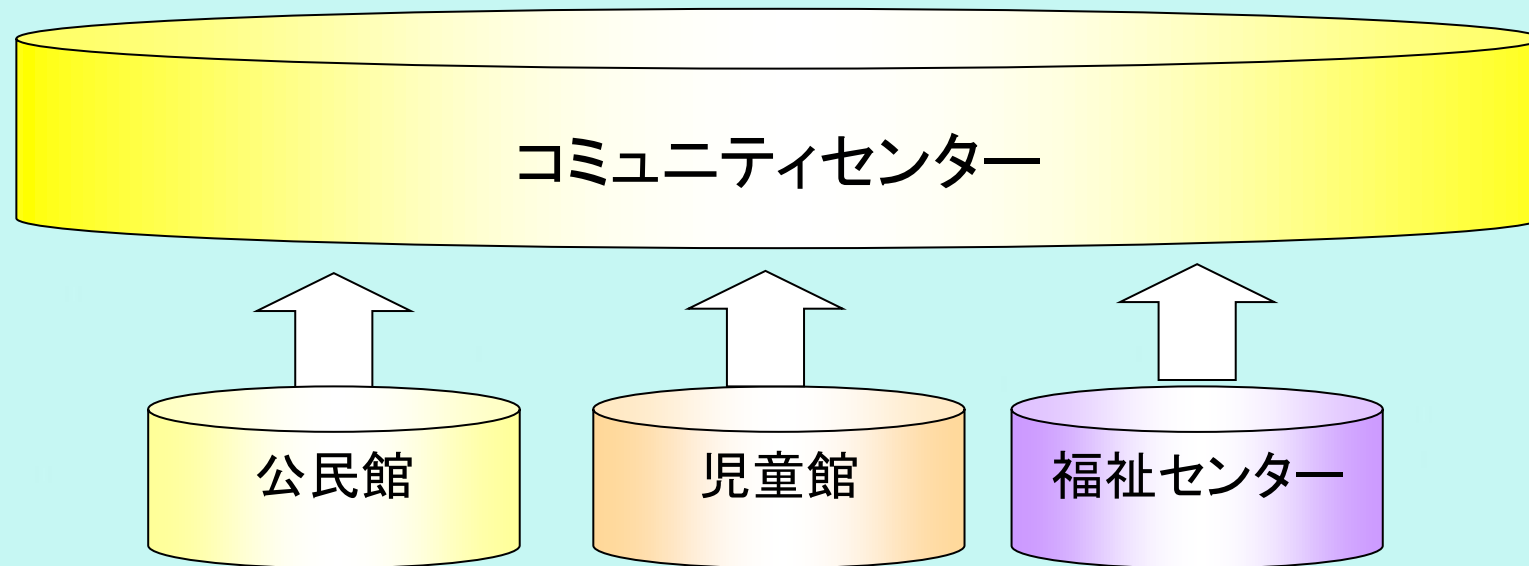


住民の自主・自立性
積極的な地域参加

各地区単位でコミュニティセンター



各地区にあった 公民館 + 児童館 + 福祉センター
= コミュニティセンター



- 地域施設の統合
- 地域の活動の一体感・既存組織の連携



5 支所地域のコミュニティセンター

平成23年2月 みしまコミュニティセンター開設

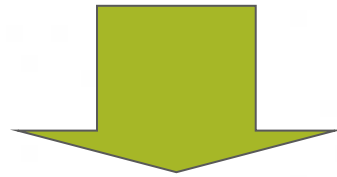
平成25年4月 よいたコミュニティセンター開設

平成26年4月 中之島コミュニティセンター開設

おぐにコミュニティセンター開設

平成30年4月 寺泊コミュニティセンター開設

とちおコミュニティセンター開設

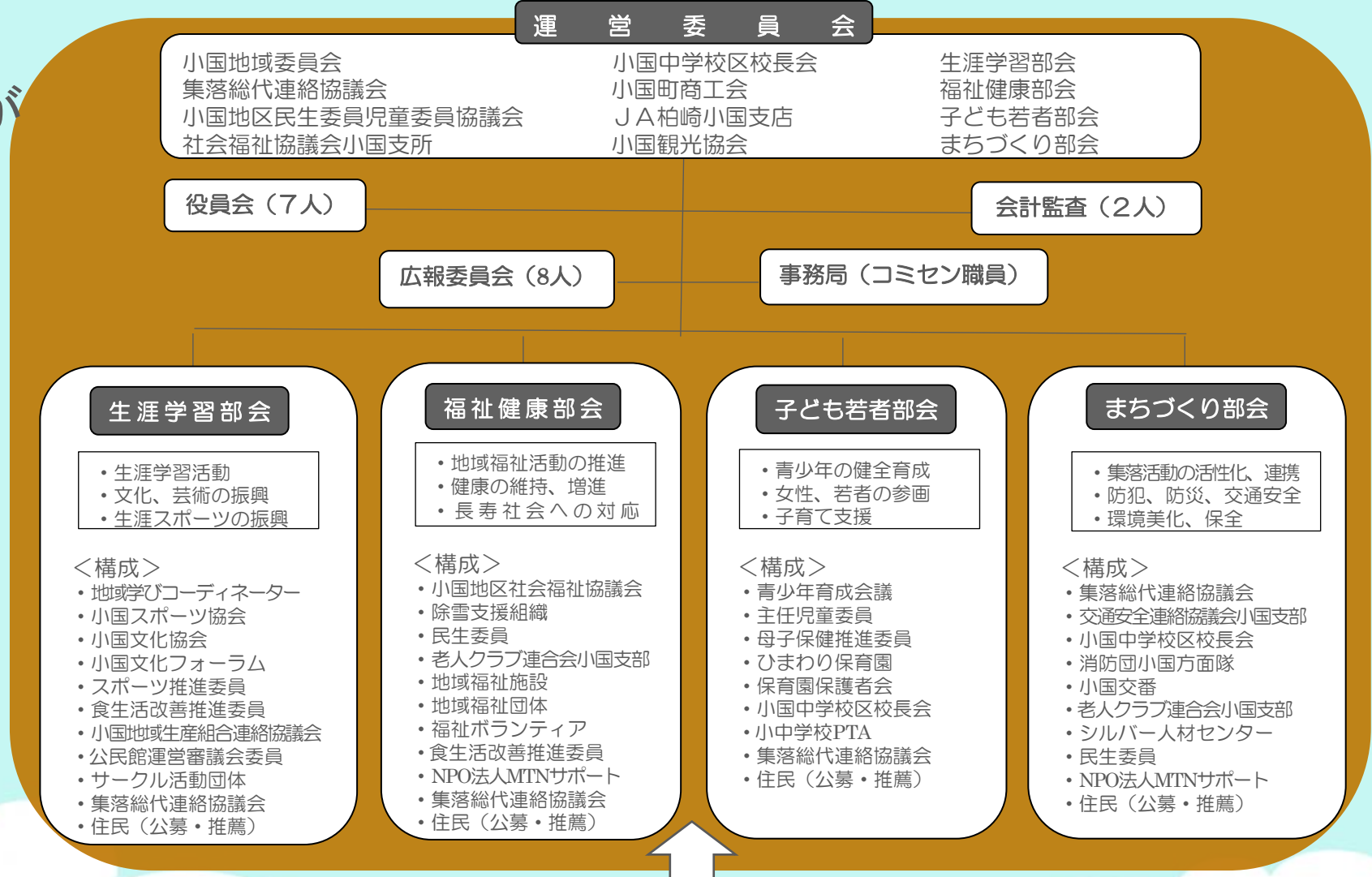


自由な発想で、
住民主体の魅力ある地域づくり

6 コミュニティセンターの運営組織

地域のコミュニティ推進組織が中心となって運営

市は、「長岡市いきいきコミュニティ事業補助金」でコミュニティ活動を支援
⇒地域の判断で、必要なところに予算を配分できる。



おぐにコミュニティ協議会

地域づくり交流会（協議会の事業として開催）

- ・小国地域がもっと住みよい地域になるよう夢を語ってもらう場
- ・小国地域住民・地域活動団体等、地域の誰もが参加できる場
- ・情報交換や連携事業実現に向けて、全体で話し合う場



7 コミュニティ活動（具体例）

生涯学習



上川西 生涯学習教室（ニコニコ大学）



王寺川 地域国際交流会



川崎 芋と花プロジェクト



希望が丘 希望まつり



福祉分野



大島 高齢者搜索訓練



新町 食事サービス



宮内 ふれあい広場



中島 地域のお茶の間



青少年健全育成



千手 三世代料理教室



四郎丸 赤城コマランド植樹会



大積 あめや踊り伝承運動



四郎丸 しろまる食堂



健康づくり・スポーツ



十日町 ダンディスポーツ倶楽部



山通 雪合戦大会



日越 地区民大運動会



日越 ウォーキング大会



防災訓練



日越 地域の安心安全活動（合同防災訓練）



地域づくり活動



表町 柿川クリーン作戦



太田 太田花いっぱい運動



山通 父子遊（おやこゆうがくじゅく）



下川西 ふれあいフェスティバル



学校との連携



栖吉 地域交通安全パトロール



黒条 学校田提供と稲作指導



深才 伝統芸能の継承



表町 児童との交流事業



支所地域



みしま セイタカアワダチソウ撲滅作戦



よいた 河川清掃活動



中之島 なかのしま冬まつり



おぐに コミセンまつり



8 コミセン化から16年

- コミセン活動への参加者の増加

参加者数：H21約58万人⇒H30 約67万人

- 地域の固有課題への取組みを実践

- セイタカアワダチソウ撲滅作戦
- 旧黒川河川清掃活動
- 大積地区雪ほり隊

- 多機能連携・世代間交流の活性化

- ふれあい食事会での高齢者と児童との交流
- 運動会の運営に中学生が参加
- 三世代料理教室
- コミセンまつり



9 新たなコミュニティ活動の展開



希望が丘コミュニティ推進協議会会長 中静勝さん

希望が丘は人口や交通量の増加で、犯罪・交通事故の件数が相対的に多い傾向にあります。しかし、地域のつながりがとても強く、安心して住めるまちです。

ステーションを中心に、町内会やPTAなど住民団体の横の連携をさらに強め、防犯・交通安全の体制を広げていきます。自分たちの力で、住みよいまちを守っていきます。

市政だより 2019.8

日頃から防犯活動に熱心な希望が丘地区に7月5日、住民が主体となって市内初の「安全安心ステーション」を開設しました。

希望が丘コミュニティセンターが事務局となり、警察、老人会、希望が丘小学校、市などが連携して、防犯や交通安全の情報を共有

する安全・安心なまちづくりの拠点です。子どもや高齢者を犯罪・交通事故から守る取り組みを進めます。

防犯マップを作成、見回りを強化

昨年5月に新潟市西区で発生した小学生の殺害事件を教訓として、地域の危険箇所を示す安全地図を、子どもの視点も取り入れて作成します。小学生の登下校などを見守

るパトロール活動をさらに拡充します。6月28日に市とセキスイハイム信越(新潟支店)が締結した連携協定により受け取った、蛍光反射たすきや発光ダイオードパトランプなども見守りに活用します。

市は今後、希望が丘地区をモデルケースとして、安全安心ステーションの設置を市内各地区に働き掛けていきます。

市民課 ☎39・2206

市内初 希望が丘で
住民主体で開設
安全安心ステーション

犯罪・交通事故を自分たちで防ぐ！



様々な人や団体が持つ情報や、ノウハウを
推進組織に集めて 地域力をUP！

コミュニティセンターが
地域の人と知恵が集まり、新たな活動が
生まれる場所になれば

